

# 初雪

去来・凡兆編『猿蓑』（元禄四）所収。初雪を喜び、雪の降りだしている外へ出てゆく。こんなとき共に初雪を賞する友が欲しい。雪見酒などと洒落てみたい。堀切実は「『内に居さうな』の俗語が利いており、初雪に興ずる気分が素直に出ている」と説く。「雪月花の時に最も君を憶ふ」『和漢朗詠集』の「君を憶ふ」気分がまさに生きている一句である。【初雪・冬】

は  
つ  
雪ゆき  
や  
内うち  
に  
居い  
さ  
う  
な  
人ひと  
は  
誰たれ

榎本其角えのもと きかく

澤 12月号目次

澤通信句会のお知らせ……………4

小澤 實 異形石器 十五句……………8

高橋睦郎 季語練習帖 第一四四回……………10

潺潺集 小澤 實選……………12

棒倒し 新澤 岳 とうとう 竹岡たつ子

誤射 吉田邦幸 地鶏肝刺し 金澤諒和

叩き落としぬ 八木橋やえ子 吾が額を オオタケシゲヲ

半目 川上弘美 姿見 宮田應孝

即返答 櫛 博子 底 福原桂子

雨の味 榮 猿丸 九個 結城あき

煙草 野崎海芋 文選箱 梶等太郎

眼鏡 高橋球子 全号 葛西省子

もぎ食い 栗生

澤俳句鑑賞 259

小島ゆかり……………18

石田秀子……………20

窓

俳書を読む

宮坂静生『草魂』／森田智子『今景』／津川絵理子『夜の

水平線』／桑本螢生『海の響』／關 考一『ジントニック

をもう一杯』 加納 燕……………22

詩文学芸書を読む

佐久間文子『ツボちゃんの話 夫・坪内祐三』

根岸哲也……………24

総合誌俳句鑑賞

「俳句」「俳壇」「俳句四季」各十月号 柳元佑太……………26

俳句結社誌を読む

「墨BOKU」創刊号 大木由美子……………28

通信句会の秀句 村越 敦……………30

潺湲集巻頭作家インタビュー 森永一正……………32

澤集巻頭作家インタビュー おきのきらら……………33

俳句を豊かにするもの

捨てていた九九%の中から 山下希記……………34

菊枕だけでなくスパークリングワインを 塚田見留……………35

同人代表句 豊田・ヌー／山口土器……………36

同人一句鑑賞 中川ノエ／山中広海……………37

澤衍……………38

澤四十句 小澤 實選……………40

選後独言 描写を重ねる 小澤 實……………42

澤集 小澤 實選……………44

木内縉太／矢島俊缶／小澤たえみ／松川みゆき／半田羽吟  
／山口土器／山岸樵鹿／大木圭之介／白崎俊火／今朝／森

下秋露／石橋志野／小田まり

新入会員／正誤表……………77

11月号発送報告……………79

お知らせ 『芭蕉の風景』別冊の送付について／  
「俳句を豊かにするもの」原稿募集のお知らせ……………80

澤俳句叢書一覧……………81

雑誌「澤」購読のご案内／購読料更新のお知らせ／  
澤基金募集のお願い……………82

澤基金応募者芳名／投句のご案内……………83

澤句会・カルチャー一覧……………84

デザインⅡ玉井一平  
広告……………85  
後記……………90

澤  
令和3年12月1日発行  
澤 俳句会  
頒価 1,200円

表紙／小澤  
實著『秀句三五〇選友』より